

29年度の地方創生の取組み・市の地方創生全般の方向性に係る論点メモ  
(委員の意見聴取から)

資料2

経済・産業・雇用（重点戦略2、5）

- 企業を立地化、集積化するときに、何を目的とするのかがこれからは重要で、例えば製造業でいえば、高速のインターから近い場所に用地を用意するのもそうであるし、ドローン産業等先端技術産業を幕張に集積するのであれば「頭脳」ということになるだろう。企業が考える優位性を基準にして立地の施策を考える必要がある。
- 先端技術の取組みを進めることにより、実利的なものは何であるのかを突き詰めて欲しい。市民の利便性なのか、あるいは市としての産業の税収なのか、それに向けてどういった技術開発が必要なのかを千葉市で徹底的に議論する必要があると思う。
- 特区指定により、先端技術産業の集積を含めた特区関連の取組みを積極的に行う一方で、千葉市の発展のため、市民にとって何がメリットなのかを考え、中長期的にみて、「モノ」を開発していくことも重要だと思う。また、市が進んでいく方向に対し、市のことを考え、意見が言えるような市民を育てることが大切になってくる。
- 地域の活性化には地域経済を支える中小企業や地場産業の活性化が不可欠と思われるが、中小企業では、働き手の確保が喫緊の課題となっている。そこで中小企業の良さをアピールし、働く人材を確保する目的で、中高生・大学生と中高生・大学生を子にもつ大人を対象とした「中小企業見学バスツアー（但し、大人と子どもは別バス・別ルート）」を開催するような施策があってもよい。

## 29年度の地方創生の取組み・市の地方創生全般の方向性に係る論点メモ (委員の意見聴取から)

### “ちば”共創都市圏の取組み (重点戦略1、2、3、6)

- 例えば、製造業の人材確保のための「共同戦線」を、千葉・市原・四街道で張っていく(協力していく)取組みなども考えられる。3市が連携して、数多くの千葉・市原・四街道の企業の情報を集約し、それぞれの高校等に提供することで、就職につながれば、地方創生の趣旨にマッチする。
- また、集めた人材をどう育成していくのかの視点も大切。例えば自動車のディーラーと工場勤務では、仕事内容も全く違うが、中小企業それぞれが、入社してきた人たちを丁寧に育成していくのは現実的に難しい面がある。育成の機会や事業継承のノウハウ提供等の支援を千葉市がリードし3市が連携してできればよいと思う。
- 市原・四街道の農業青年と手を組んで、“門前町構想”に先駆け、中央公園・通町公園で青空マルシェを定期的に実施できないか。ここで若いやる気のある人の発表の場や研さんの場にもしてもらい、農業での「稼ぐ力」につながればよいと思う。
- 千葉市よりも市原市や四街道市のほうが農業のノウハウを持っているイメージがあり、市原・四街道から支援してもらうことによる「連携」という方法もあるのではないか。
- 広域連携について、千葉市と他自治体との同種の地域資源・資産を媒介として、ゆるやかな「つながり」を持つことから始めればよいのではないか。例えば、(加曽利)貝塚、(市)科学館、市立高校などお互いの資産を、ホームページで掲載するなど、ハードルの低いところから始め、徐々にネットワークを広げていき、いずれコンソーシアムのような形に発展できればなおよいのではないか。

29年度の地方創生の取組み・市の地方創生全般の方向性に係る論点メモ  
(委員の意見聴取から)

オリンピック・パラリンピック（多文化共生・国際化・インバウンド）（重点戦略7、2、4）

- オリンピック・パラリンピックへの準備の際には、在住外国人や既にボランティア登録をしている人材を組織化・ネットワーク化するなど、既存人材や資源の活用という視点が重要である。
- パラスポーツや教育面の推進、数多くのイベントの実施など、パラリンピックを盛り上げていく姿勢は共感できる。さらに、車いすバスケット以外の車いすスポーツについても強化拠点施設の指定を目指すなど、「競技」そのものについても、取組みを強化することで、レガシーがより明確になるのではないか。
- 外国人観光客について、中国や台湾、韓国が内訳として多いと思うが、ヨーロッパやアメリカの人たちも日本の文化に興味は持っていると思われ、アジアだけでなく、欧米系もターゲットとして、施策を考えていくことも必要かもしれない。
- インバウンド戦略を立てるにあたっては、訪日観光客数の割合が多い中国、台湾、韓国、また市が力を入れているマレーシア、インドネシアなど、千葉市ではどの国から多く観光に来ているのか等のデータがあって戦略が立てられると思う。
- 多文化共生社会に向け、在住外国人の住み良さ向上に向けた取組みは不可欠だが、地方創生の観点から見れば、技術や知識のある外国人や、将来性のある留学生を外から呼び込み、地域で活躍してもらうという視点も必要。例えば、国際都市としての市の魅力の発信や、高度外国人人材の活躍を促すような施策について、「多文化共生によるまちづくりの推進」として重点戦略の施策の一つに加えることはできないか。

## 29年度の地方創生の取組み・市の地方創生全般の方向性に係る論点メモ (委員の意見聴取から)

### 教育 (重点戦略3)

- 教育行政は、「教科型」の話が中心になりがちであるが、地域資源の教材化を図り、「地域」が学校に入り込むことで、「地方創生」につながってくるのではないかと思う。その際、できれば、授業の中に組み込むなどして、教育の「本丸」で実施できればさらに良い。

### 総合戦略の推進他について (追加の視点等) (重点戦略2、5、6)

- 千葉市、千葉の魅力として何を訴求するのかを考えていかなければならない。プロモーションや方法論もいいが、千葉市の魅力や千葉の素材で何ができるのか、何をどこで訴求していくのかなどについて、市職員全員でアイデアを出し合い、自分たちで考えていくことが大事。
- 『「どこに」「どういうふう」プロモーションを行っていくのか』『1年を通して、オオガハスや海辺など、千葉市の素材を海外にどうアピールしていくか』『幕張をどのようにPRしていくか』など海外に向けて、どう発信していくかを、お互いに議論できればと考えている。
- ある住宅情報サイトが調査した「住みたい街ランキング 2017」で1位が船橋、7位津田沼と総武線沿線の駅がトップ10にランキングしていた。アンケート調査ではあるが、船橋、津田沼にあって、千葉市にないもの、学ぶべき政策、いいケーススタディがあれば取り入れ、会議の場でも紹介して欲しい。
- 高齢やその他の理由で、飼育者が飼育できなくなったペットの引き取りや斡旋を行う取組みがあってもよい。
- 全体の方向性は良いと思うが、総花的な感がある。市として、優先順位を設定し、「目玉となる戦略」を打ち出すことが大事だと思う。